

砺波総合病院から



心臓血管外科
小杉 郁子

市立砺波総合病院 ☎32-3320
ホームページ <http://www.city.tonami.toyama.jp/tgh/>



知られていない 恐ろしい病気 動脈瘤

人体の中には、いろいろな役割を担う臓器があります。心臓、脳、胃、肝臓などは皆さんよくご存知でしょう。これらの臓器は精密機械のように連動しています。ポンプである心臓からさまざまな臓器に血液を循環させるのが血管（動脈と静脈）です。動脈の代表的な病気は二つあります。一つは閉塞性動脈硬化症（広報とнам）2009年3月号に掲載）で、もう一つは動脈瘤です。

つは動脈瘤です。

動脈瘤とは、「動脈の壁全体、あるいは一部が膨らんだ状態」です。普通なら単純なまっすぐな管ですが、瘤となった部分は風船のようになっていきます（図1）。膨らみができた場所によって名称がそれぞれあり、胸の大動脈なら胸部大動脈瘤、腹なら腹部大動脈瘤と呼ばれます。



図1 腹部大動脈瘤

動脈がどうして膨らむのかはまだ科学的に解明されていませんが、高血圧や動脈硬化がある人に多いようです。動脈瘤は普段は症状がないので、たいていは別の理由で受診されてレントゲンや超音波検査、CTなどを受けたときに偶然発見されます。しかし、胸痛や腹痛、背部痛といった症状や、腹部に触れると拍動する塊があるという症状により見つかるともあります。特に太っていないければ、あお向けになると入るあたりに拍動を感じるこ

とがあります。腹部大動脈の直径は2cmで、指で挟み込むようにすると卵ほどの大きさです。もしそれ以上に大きな塊がある場合は、病院で検査を受けた方がよいでしょう。

「治療方法について」

動脈瘤は、できている場所と大きさにより治療方法が異なります。

代表的な例を挙げると、腹部大動脈瘤は直径5cm以上が治療の対象です。主な治療法は、全身麻酔をかけて開腹し、瘤の部分を人工血管という代わりの管に置き換える手術で、破裂する前に動脈そのものを新しいものにしてしまう方法です（図2）。また最近では2006年に認可された「ステントグラフト内挿術」が可能な場合も増えてきました。こちらは、局所麻酔をかけて足の付け根の動脈を入口にして、瘤



図2 人工血管置換術

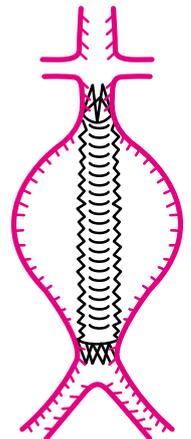


図3 ステントグラフト内挿術

の内側に金属の筒と人工血管を組み合わせたものを入れ、補強する方法です（図3）。いずれの手術も成功率は90%以上と報告されています。しかし、破裂してしまつてからでは成功率は低くなるため、動脈瘤も早期発見が重要です。

ご自分の健康管理のため、定期的に欠かさずかかりつけ医へ受診するとともに、機会があれば腹部超音波検査やCTを受けてみてください。

患者さんへのお願い

患者間違いなどによる医療事故の発生を防ぐため、大変恐縮ですが、患者さんには、診療、検査、投薬、注射などの際、「自ら」お名前を名乗っていただくとともに、ご自身による最終確認をしていただくなど、積極的なご協力をお願いいたします。